

給食に熱い学校

この言葉がぴったりとあてはまる取り組みが令和3年度にありました。

新型コロナの関係で、白川郷学園が大切にしている“結クラス”（学年を縦割りにしたクラス）ウイークや結クラス遊びなどに、どうしても制限がかかり、なかなか活動ができない状況が続いていました。

給食も同様で、班で食べることなく、また黙食という静かに食べることから、本来の楽しい給食の時間とはかけ離れてしまっています。

そこで結クラスのリーダーである9年生17名は、少しでも結クラスのつながりや、楽しい時間を増やしたいという願いから、「結クラス希望献立」の活動を行うことにしました。

9年生リーダーたちは、1年生から8年生までが、楽しくかつ興味をそそるようにと議論を重ねていました。私自身がこの取り組みにおいて特に感心させられたのは、9年生の献立テーマに込めた願いでした。

- ・アレルギー体質の児童生徒も全員安心して食べられる献立にしたい。
- ・栄養いっぱいや“コロナに負けない”など工夫ある献立にしたい。
- ・グローバルな時代だからこそ異国の食文化にふれる献立にしたい。

相手を慮る心、またコロナに負けない意思の表明、グローバル化へ興味関心等、学校のリーダーとして存在感が十分であり、頼もしさもうかがうことができました。

この様な願いの下、結クラスでの話し合いはおのずと笑顔になり、自分たちの班のアイデアが生かされた給食が献立として完成し、実際給食となって実現されたのです。

また、この活動を成功させる上で、川原昌士栄養教諭の「何としても9つの献立を成功させよう」と、9年生リーダーと材料の相談や、給食調理員さんとの実現可能にするミーティングが繰り返し行われていました。無論栄養の偏りなく、さらには費用の面まで考えるとその苦労は相当なものになっています。

そのような過程を経て実施された“結クラス給食”は白川郷学園ならではの活動と自負しています。令和4年度もどのようなテーマになるのか、はたまた新たな取り組みがなされるのか、給食の時間が楽しみになってきました。

今後の動きに期待しつつ、改めて日々給食をおいしくいただけることに感謝を申し上げます。これからもおいしくいただきます。ありがとうございます。

白川郷学園 校長 大坪辰也